

Respiratory Care Topics

2011
11

FCCS 2011年8月関西コース

FCCS (Fundamental Critical Care Support) コースは米国集中治療医学会が企画運営する、重症患者を管理する上で基本となる概念や知識、具体的実践を学ぶための研修コースである。わが国では日本集中治療教育研究会 (JSEPTIC) 内の FCCS 運営委員会が主催し、2009年の第1回以降、関東、関西、北海道、仙台などでコースが開催されている。今回は8月27日(土)、28日(日)に大阪市立総合医療センターで開催された2011年8月関西コースのうち、2日目の模様をお届けする。



集中治療における医療の標準化

医療の標準化は国際的な潮流であり、特に救急領域のBLS/ACLS(一次救命処置/二次救命処置)などは、日本でも幅広い層に向けた教育が浸透している。その成功に比べると、集中治療領域における標準化はやや

立ち遅れていた感もあるが、近年になっていくつが目立つ動きが見られる。例えば人工呼吸管理においては、ウィーニング・プロトコルやバンドルケアも標準化のひとつであろう。そして、標準化のためのシミュレーション教育として注目を集めているのが、このFCCSコースである。

講義とスキル・ステーション

本コースの主な対象は、集中治療を専門としない医師あるいは研修医、そして集中治療に携わる看護師や臨床工学技士などのメディカルスタッフである(今回の受講者内訳は臨床工学技士2名、看護師15名、研修医9名、医師27名)。プログラムの内容は別表に示す通りであるが、集中治療のエッセンスとなる知識を取り扱う講義と、初期治療場面を中心としたスキル・ステーション(ショック、NPPV、血管確保、気道管理、人工呼吸、MET)で構成される。取材した2日目は今井寛先生(三重大学)による「急性呼吸不全の診断と治療」、天谷文昌先生(京都第一赤十字病院)と大野博司先生(洛和会音羽病院)による「人工呼吸」の講義が行われた。いずれもスライドを基にした講義形式ではあるが、症例を挙げて受講者に意見を求めたり、酸素化のパラメータを計算してもらい理解を促すなど、座学であっ

FCCS コースのプログラム内容 (2011年8月関西コース)

MV: mechanical ventilation
MET: medical emergency team

8月27日(土)	
7:30 - 8:00	受付
8:00 - 8:15	プレテスト
8:15 - 8:20	FCCS 概略
8:20 - 8:50	重症患者の見分け方と評価
8:50 - 9:30	ショックの診断と治療
9:40 - 10:20	血流、酸素化、酸塩基平衡のモニタリング
10:20 - 11:00	致死感染症: 診断と抗菌薬の診断
11:00 - 11:40	神経学的サポート
11:40 - 12:20	生命を脅かす電解質異常および代謝異常の管理
12:20 - 13:30	昼食(ランチョン) インストラクター・カリキュラム
13:30 - 16:50	スキル・ステーション-1-各50分 Shock, NPPV, Line, Airway
17:00 - 18:00	急性冠症候群と特殊病態
18:00 - 18:40	妊娠期の集中治療管理
18:40 - 19:00	集中治療における倫理

8月28日(日)	
7:30 - 7:50	受付
7:50 - 8:00	プレテスト評価
8:00 - 8:40	急性呼吸不全の診断と治療
8:40 - 9:20	人工呼吸その1
9:20 - 10:00	人工呼吸その2
10:00 - 10:30	院内急変対応チーム MET デモンストレーション
10:40 - 12:20	スキル・ステーション-2a-各50分 MV, MET
12:20 - 13:00	昼食
13:00 - 14:40	スキル・ステーション-2b-各50分 MV, MET
15:00 - 16:00	ポストテスト
16:00 - 17:00	コース評価

シミュレータを前に進行の説明。どんな急変が…?



さて、モニター値はどのように変化しているか…?



反応がない! 応援を呼びつつ患者状態を確認。



バッグバルブマスクで用手換気を開始。



MET 到着。リーダー役の指示で酸素投与を開始。

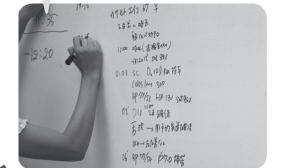


舌根沈下のため気管挿管へ。介助は大丈夫?



●スキル・ステーション (MET)

患者のバイタルサインや処置内容の記録も重要。



●スキル・ステーション (MV)

まずはガス端末への接続など基本をおさらい。



症例に基づき、換気設定変更や確認事項を考える。



集中治療の基本的考え方、動き方を、座学とシミュレーションの両方で学べるコースです。講評は一对一で何でもお答えします!



FCCS 運営委員会 代表 安宅一見先生 (大阪市立総合医療センター)

ても知識をそのまま実践につなげていけるような工夫が施されている。

スキル・ステーションは6~7名のグループに分かれ、それぞれに2名程度の講師が配置されて行われる。2日目のテーマはMV, METだったが、特にMVは人工呼吸器の実

器を用いたプログラムであり、この種のシミュレーション教育の多くが事故防止のレベルにとどまっているのに対し、治療に目を向けたシナリオ設定に基づいている点は貴重といえるだろう。スキル・ステーションの時間が2日間で計400分とたっ

り用意されているのも魅力である。

最後にポストテストを受け、2日間のコースの到達度を測ることができる。また、受講者は個別に講評を受けることもでき、机を挟んで講師陣に熱心に質問する姿が見られた。

(取材・構成 山川賢治)

受講者の看護師たちに感想を聞いてみました



★勤務施設は心臓外科術後の重症患者が多く、一般的な集中治療も知りたいと思って参加しました。医師がどんなことを考えながら治療を進めているかを感じられたのが特によかったです。(国立循環器病研究センター病院 ICU 看護師/政岡祐輝さん)

●集中治療で何を優先して考えるかがクリアになったように思います。●施設でRRT (rapid response team) を立ち上げ予定ということもあり、参考になりました。●日ごろの疑問を含めてこちらから質問できたので、最後の講評が勉強になりました。

FCCS 運営委員会 ホームページ

コース開催予定などの情報はこちらをご参照ください。
→ <http://www.jseptic.com/simulation/fccs.html>